

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	未成 妙子	職名	教授	学位	教育学修士 (音楽教育学)
----	-------	----	----	----	---------------

研究分野	研究内容のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽教育学 ・特別支援教育学 ・幼児の表現教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい教育 (聴覚障がい乳幼児) ・こども音楽療育 ・表現 (身体・音楽)

研究課題
<p>「こども音楽療育」の立場から、音楽の多様な力を日常の保育の中で生かし、子どもの発達を支援する保育者を育てるために、保育の領域を広く見据え、考察し、音楽の実践力をつける方法を研究する。こどもの演奏を存分に引き立たせ、技術的に演奏しやすい楽曲を創作し、実際の保育の場面で生かせるように楽譜に起こす。障がいのある子ども、そうでない子ども、共に活動ができ、発達を促す「表現活動」について研究する。2021年5月に出版予定の『幼児期の表現活動』の執筆に加え、編者となっている『障がいのある子どもの保育・教育の実践 (仮)』の執筆も同時に進めている。</p>

担当授業科目
<p>こどものうたあそび (後期) 保育内容「表現 (身体・音楽表現)」(前期) 保育総合表現 (後期) こども音楽療育概論 (前期) こども音楽療育概論 (後期) こども音楽療育実習 (後期) こども学基礎演習 こども学特別演習</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 こども学基礎演習 】</p> <p>コロナ禍の活動になり、学部全体で決まっていた年間の流れが大きく変更されることになった。未成ゼミとしての特徴は音楽を中心に据えるということであったが、画面上の練習を経たのち、唯一対面がかなった後期の「お話発表会」では、学生の積極的な発表を実現することができた。リーダーを中心に発表の流れを構築していく活動を学生自身が楽しみ、リーダーに任せきりになることがなく取り組めたので、この学びは保育の現場で必ず役立つものだと感じた。紙芝居では、内容の1部を歌にして他のゼミに発表するなど意欲的な活動もできた。</p>
<p>授業科目名【 こども学特別演習 】</p> <p>わずかに対面活動が可能になった時期は奏でてみたい器楽合奏を各々が選び、実際に演奏することができた。「音楽の道しるべ」というべき楽譜の存在の大切さ、すばらしさを実感するために、リモートにおいても演奏したり、演奏を聴き合ったり、楽譜について見識を深める活動を重ねた。ハンドベルをつかって子どもの歌を美しく響かせる工夫も楽しむことができた。</p> <p>入学以来リモートが続く1年生に向けて、実習や就職の話、手作り教材の披露などを通じて交流の機会を作ってくれて、画面を通しての楽しいゲームを考えてくれたりして後輩への働きかけを積極的に行った。</p>
<p>授業科目名【 保育内容「表現 (身体・音楽)」 】</p> <p>ドラムジカの制作を行い「劇あそびと音楽を関連づけた表現あそび」を構成した。リモートではありながら役作りを考え、お互いの表現活動を考察する授業を展開した。未成自作の楽曲を用い、全音階を用いた旋法の和声の響きを奏でてみたり、手作り楽器のギロを作り、実際に自分で作った楽器の音を鳴らしたり、形や工夫したことを披露することで、お互いの良い点を見つけ合った。子どもにとって表現することの大切さを学ぶ</p>

ことで、表現の環境を整えるということについても考えを深め合うことができた。

授業科目名【こども音楽療育実習】

学生を3つのグループに分け、市内の幼稚園3園とリモートでつなぐ音楽療育の実践を行った。コロナウィルスの感染者が全国的に増えてき始めた2020年12月18日、最初の園とリモートでも触れ合える企画を考えて、園と遠隔授業で自宅にいる学生をZoomで繋いで音楽あそびの実習を行った。手あそびの《大阪うまいもんの歌》を題材に《福岡うまいもんの歌》を子どもの意見を取り入れながら作り、シルエットクイズを盛り込みながら最後は吉岡弘行作曲「合唱組曲《キュージーン》」から《大阪風お好み焼き》を披露した。演奏の部分は事前にリモート演奏の動画を作成し、それを流す方法をとった。何回もZoomでのリハーサルを重ね、動画とライブの切り替えのタイミングを練習して行った。

幼稚園児たちは、園のホールに設置されたスクリーンの前に集まり、初めての体験ながら、学生の問いかけに元気に答え、画面を通して楽しい時間を過ごした。学生たちは園児の反応を画面で見ているので双方向のやりとりも大変スムーズに進めることができた。地元のおいしいものを考えるためのシルエットクイズが大変好評だった。最後の《大阪風お好み焼き》の歌は、「おもしろーい！」と喜んで聴いてもらい、さようならのあいさつの後も、園児から「また面白いことしてね」という声援を聞くことができた。

年内に1園、年明けに最後の1園とそれぞれ異なる企画でリモート療育音楽あそびを行い、いずれも大変高評価をいただき今後の我々の励みともなった。

授業科目名【保育総合表現】

過去4年間は外部のホールにて土曜日の午後で開催し、昨年度は2020年1月15日（金）に、本学マロリーホールにおいて「シオンの丘子ども劇場」というタイトルで劇を開催した。しかし本年度はコロナ禍のリモートということで、学生による脚本制作を行った。セリフはもちろんのこと、劇中の曲作り、効果音、対面の時にわずかに出来上がった大道具小道具をもとに考えた舞台道具の制作方法などを100ページ余りのブックレットにまとめることができた。学生の振り返りによれば、「実に困難を極めたが、画面上の話し合いは非常に充実して、だれ一人他人任せにすることなく、みんながリーダーのように制作に携わった。」と書かれていた。保育科の学生はパソコン操作などに少し自信のない学生もいたが、今回のブックレットの制作に関して、ドキュメントからの写真の整理や文章作り、作図のテクニックなど、多くのことを学べたのは収穫だったようだ。

授業科目名【こども音楽療育演習】

ユニバーサルデザインの音楽ということに着目して、音楽の多様な力を使った様々なセッションについて解説した。この授業では障がいのある幼児さんとかかわるときに曲はどのようにアレンジしたらよいかということをも末成と個別に検討し、本当に自分が現場で使えるセッションを構築することを目指した。「オノマトペ」を図と一緒に提示する『どんなおと?』という絵本を作ることで、障害のある子にとって一つの大きな壁ともいえる言葉の領域についても深く考察して、ピアノにとらわれず様々な楽器を使うことを含めて、研究することができた。

授業科目名【こどものうたあそび】

次週の課題となる曲目をはっきり提示して予習が必ずできるように心掛けた。保育園・幼稚園では毎日必ず何らかの音楽を使った活動や歌う活動がある。歌いながら手や指先、からだを動かしてあそぶことは人間関係を深めていくことにつながり、そうした遊びの中からこどもの「協調性」や「感性」が育つことを毎回多くの楽曲をとおして学ぶことができる授業とした。わらべ歌から最近のこどもの歌まで、14回の講義にどの曲を学ばせるかは、十分に精査して講義を進めた。リモートでありながら各家庭から互いに励ましあったりして伴奏を演奏してくれる学生が出て、各自が持ち前の個性を發揮して、積極的に取り組んだ。この積極性は保育科のすばらしさであると改めて実感した。明るくはっきりした歌声で歌い合い、見せ合い、様々な歌を自分のものにしていった。「はじまりとおわりのうたあそび」「指や手の動きを楽しむうたあそび」「体の動きを楽しむうたあそび」「行事や生活のうたあそび」「集団で楽しむうたあそび」などテーマを絞って提示することもできた。

授業科目名【こども音楽療育概論】

末成の行ってきた実践を多く取り入れて講義を進めた。聴覚障害の実際について、具体的な様々な角度からの不自由さを理解し、映像などを提示しながら、音楽の力と障がいのあるこどもへの理解を深めさせた。受講する学生は入学時からこの科目に強い関心を持って受講しているので32名の学生は向学心を持ち、緊張感を持っていた。リモートになっても回を追うごとに大変積極的な調べ学習や取り組みが見られた。発達障がいを含めた多様な障がいの実態を知り、近年ますます多様化、重複化するこどもの障がいを理解するために、できるだけエピソードを交えながら講義を進めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本音楽教育学会	正会員	2011年～現在に至る

2018年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

国際交流委員会	副委員長	留学生選考の面接試験において試験官を務めた。
公開講座委員会	委員長	
学生委員会	副委員長	

7月8日(水) 高大連携講座 西南女学院附属高校 6年生対象に実施

以上